

## (16) 医学教育部会

教育部会名	医学教育部会長
部会長名／作成者名	三浦 靖史／同左
概 要	
<p>(1) 組織・運営について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・部会構成、実施体制など</li></ul> <p>医学教育部会は、基礎教養科目として「医学 A」、「医学 B」、「保健学 A」、「保健学 B」、「健康科学 A」、「健康科学 B」の 6 つ、総合教養科目として「生命科学 A」、「生命科学 B」の 2 つの合計 8 つの講義を、各クォーターに 2 つずつの配分で、医学部保健学科と医学部医学科/医学部附属病院に所属している教員が、それぞれオムニバス方式で担当して開講している。8 講義の主担当教員計 6 名が代表となって、各科目を分担して担当する構成教員の講義内容とカリキュラムの調整、シラバスの作成を行うとともに、授業の改善に関する検討は各教員からの意見を集約して、教育部会長ならびに幹事と調整して実施しており、従来通りである。</p> <p>(2) 実施状況について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・開講科目とカリキュラム</li></ul> <p>開講科目とカリキュラムの詳細を以下に記す。</p> <p>医学 A：現代社会の中で、大学生、社会人として生きていくためには、ストレスの理解、自己健康管理のノウハウを身につけておくことは必須であり、このような目的に即した基本的知識を修得する。</p> <p>医学 B：現代社会は環境変化により新しい感染症も未だに出現するため、どのような対応策が未来社会においてあるのか学ぶ必要がある。一方、老化という問題はさけては通れず、老化に伴い動脈硬化が起こり、疾患が増加するため、若いときから、スポーツにより身体の健康を維持するなどの基礎知識を修得する。</p> <p>保健学 A：日本は世界でもトップレベルの長寿国であるが、今日のような長寿社会がもたらされたのは、病気の予防対策や検診などを初めとする保健学の進歩のおかげである。一方で、新しい感染症の出現や人口構成の変化に伴う病気の変化など、さまざまな新しい課題が次々と生じており、感染症、細胞の機能、アルコールの人体への影響、長寿社会と高齢者の保健、生活リズムと保健およびメンタルヘルスについて知識を修得する。</p> <p>保健学 B：近年の医療の進歩により、かつて治療が難しく死に至ることが当然であった、がんのような悪性の病気であっても、病状をコントロールして生存できるようになった。しかし、良い治療成績が得られるためには、早期診断と早期治療、そして健康管理が欠かせない。そこで、重要と考えられる生活習慣病、がん、神経機能、女性の健康の基礎知識を習得する。</p> <p>健康科学 A：我々が毎日、食べたり、運動したり、物を見聞きし考えたり、眠ったりしていることは当たり前のことのように、全ての身体の機能が順調に機能していて初めて可能であり、健康に関する基礎知識を習得する。</p> <p>健康科学 B：病気や怪我になって初めて健康のありがたさが分かるというように、健康であればあるほど健康については関心が薄くなりがちである。そこで、健康管理の対象となる心と身体について、それらの機能とも関連づけながら学ぶことにより、自身の健康への興味を高め、健康管理ができるような知識を習得する。</p> <p>生命科学 A：身体の構造を基本とし、機能と、さらにはその異常である病気までを統合的に学ぶことをテーマとし、生命と健康に関する関心を高め、各自の健康づくりに役立てることができるような知識を習得する。</p> <p>生命科学 B：健康管理に必要な、ヒトの身体の様々な機能に関する知識を中心に、その機能に異常が起きたために生じる病気や構造の異常を、多様な視点から学ぶことをテーマとし、自分自身での健康管理ができるような知識を習得する。</p>	

#### ・今年度の工夫・改善点

クォーター制が導入されて以降、教養科目として相応しい内容となるように、オムニバス形式の特性を最大限に活用して、8回の期間内に多様性に富む講義が行われるように教員の専門性を考えた担当割を実施した。また、講義の実施に当たっては、部会長及び幹事から、主担当教員を通じて分担教員に過去の講義アンケートで指摘を受けた事項、例えば、講義ハンドアウトの未配布や冊数不足、刺激の強い医療系スライドの使用の自粛や、使用が必須の場合には事前に学生にそのようなスライドのある旨を周知するようにとの注意事項を伝達した。

#### ・現状と評価

医学教育部会担当の8科目は共通して、生命、健康と病気に関する正しい知識と、自己と他者の健康への配慮の基礎となる知識を得られることを目標にしており、医学部で行われるような専門的な疾病論の講義でなく、学生が健康管理への多面的な関心が高められるようにオムニバス形式を用いて工夫している。このように、部会が担当する各科目は、社会的に重要な健康や病気に関する内容を幅広く取り上げており、全体として学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等の趣旨に十分に沿ったものであると考えられる。

一方、医学教育部会が担当する教養科目の性質上、授業形態は講義に限られており、また、大教室での講義を実施したため、学生個々に対するきめ細かな指導や、少人数・対話討論型授業等の形式による講義を取り入れることは困難であった。しかし、教材としてパワーポイントによる画像供覧と動画を使用しているほか、講義資料の配布等の学生の要望に添った対応を行っていることで、現状は適切であると考えられる。

定期試験においては、シラバスに事前に作成された成績評価基準が詳細に明記されており、その基準に従って定期試験成績に基づいて厳格に成績評価と単位認定が実施されている。また、各担当教員間での成績評価に極端なばらつきがないか主担当教員における成績集計に際して確認して、成績評価の客観性と厳格性を担保するための措置を実施している。

さらに、試験の解答率、授業評価アンケート、成績評価の分布等から学習目標の達成度は概ね良好であると考えられ、学習成果は十分に上がっていると考えられる。

#### (3) 課題について

・医学教育部会の特性として2つの遠隔地キャンパスに勤務する教員で構成されること、全ての科目がオムニバス形式で開講されていること、特に医学科・附属病院に所属する構成教員は、毎年多数が入れ代わるため、新担当教員に対して周知事項の徹底に務めているものの、全学共通教育に不慣れな教員が講義を行わざるを得ないという部会特有の課題は継続したままである。特にクォーター制の導入後は、1科目当たりの担当教員が少なくなったことから、教員一人当たりの責任は増しており、特に試験における専門の難易度の統一は簡単なことではないが、今年度の評価も含め、今後さらなる発展ができるように部会として絶え間ない努力を行う必要がある。

#### (4) 総合所見

以上、概略的には、本医学教育部会が担当する8つの教養科目の講義においては、概ね目標を達成していると評価できると考えている。

## **A 組織構成と運営体制について**

①基本的な組織構成が適切であり、実施体制・運営体制が適切に整備され、機能しているか

2 キャンパス（名谷・大倉山）に所属している部会員を、キャンパス毎に 4 講義の担当に分け、主担当教員 8 科目 6 名が中心となって、学科の教務係の支援も受けながら、各科目をオムニバスで担当する構成教員の講義内容とカリキュラムの調整、シラバスの作成を行っているが、円滑に講義が実施できていると考えている。

根拠資料

教育部会構成員名簿

## **B 内部質保証について**

①学生を含む関係者等からの意見を体系的、継続的に収集、分析し、その意見を反映した取組を組織的にしているか

学生から寄せられた授業評価、試験成績分布と合格率に関しては、主担当教員を介して、部会員にフィードバックすることにより、質保証に努めていると考えている。

根拠資料

授業振り返りアンケート結果、成績分布、合格率

②自己点検・評価によって確認された問題点を改善するための対応措置を講じ、計画された取組が成果をあげている、又は計画された取組の進捗が確認されている、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されているか

過年度に指摘されている刺激の強いスライドの使用の自粛や、講義配付資料不足を生じさせないための部会員への周知などの、部会による取り組みが緩徐であるが効果を発揮してきていると考えられることから、取り組みの成果は確認されていると考えている。

根拠資料

前年度までの自己点検・評価報告書、シラバス（今年度の工夫）

③授業の内容及び方法の改善を図るためのFDを組織的に実施しているか

部会員が所属している保健学科、医学科・附属病院では、それぞれで組織的なFD活動が活発に行われている。また、遠隔地キャンパスであることから、国際教養教育院におけるFDへの参加は容易ではないが、部会員への周知徹底を行っていることから、FDは組織的に実施していると考えている。

根拠資料

ピアレビュー（授業参観）実施に関するガイドライン

④教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者が配置され、適切に活用されるときともに、それらの者が担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施しているか

医学教育部会の担当科目はいずれも、TA/SA等を採用していないため当項目は該当しない

根拠資料

TA/SAの採用がないこと

## C 教育課程と学習成果について

- ①当該教育部会が提供する授業の目標が、全学共通授業科目の区分ごとの学修目標に対応したものとなっているか

基礎教養科目は所属する専門分野以外の主要な学問分野について基本的な知識及びものの見方を学修することを目的とし、総合教養科目は、多文化に対する理解を深め、多分野にまたがる課題を考え、複眼的なものの見方、課題発見力を養成することを目的としている区分ごとの学修目標に対応していると考えている。

根拠資料  
シラバス

- ②授業担当者に共通目標や学部からの要請を示し、到達目標をそれに沿ったものにする配慮がなされているか

保健学科においては部会長が、医学科・附属病院においては幹事が主担当教員を経て、授業担当者に共通目標についてシラバスを用いて周知しており、到達目標が共通目標に沿ったものになるように配慮がなされていると考えている。

根拠資料  
シラバス

- ③授業科目の内容が、共通目標や個々の到達目標を達成するものとなっているか

授業科目の内容は、我々が生きていく上で必要な健康管理まで、基礎から臨床医学までを学ぶという共通目標を達成できるように構成されており、到達目標を達成していると考えている。

根拠資料  
シラバス

- ④単位の実質化への配慮がなされているか

シラバスや概要説明で、合格点に到達するには、十分な予習復習が必要であることを周知した上で、定期試験問題を高いレベルに設定したことにより、単位の実質化への配慮が十分にもなされていたと考えている。

根拠資料  
シラバス、試験成績分布

- ⑤教育の目標に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組み合わせ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導法の工夫がなされているか

科目の性質上、授業形態は大教室での講義に限られているため、学生個々に対するきめ細かな指導や、少人数・対話討論型授業等の形式の導入は不可能であるが、教材として画像供覧と動画を使用しているほか、講義資料の配布等の学生の要望に添った対応を行っていることから、概ね適切な講義が行われたと考えている。

根拠資料  
シラバス、授業振り返りアンケート

- ⑥シラバスに、必須項目として「授業名、担当教員名、授業のテーマ、授業の到達目標、授業形態、授業の概要と計画、成績評価方法、成績評価基準、履修上の注意（関連科目情報）、事前・事後学修」及び「教科書又は参考文献」が記載されており、学生が書く授業科目の準備学修等を進めるための基本となるものとして、全項目について記入されているか

シラバスの必須記載項目は全て記載されていることを確認しており、学生の準備学修を進めるための基本となっていると考えている。

根拠資料  
シラバス

⑦学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われているか

部会員は大倉山あるいは名谷に本務先があるため、学生への指導、助言の体制は電子メールを主なコミュニケーションツールとして整備している。このことは、学生らのコミュニケーション手段がメールや SNS が主体となっている今日に適合しており、指導、助言も適切に実施されていると考えている。

根拠資料

シラバス、学生とのメール発信記録

⑧学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われているか

部会員は大倉山あるいは名谷に本務先があるため、学生と直接面談しての学習相談の実施は、物理的距離により非現実的である。そこで、電子メールを主な連絡手段として学習相談と支援を実施できる体制を整備しており、助言・支援が行われていると考えている。

根拠資料

シラバス、学生とのメール発信記録

⑨成績評価基準及び成績評価方針に従って、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか

成績評価は、定期試験に基づいており試験は厳格に実施されている。また、各担当教員間での成績評価に極端なばらつきがないか主担当教員における成績集計に際し確認し、さらに、秀・優評価に極端な偏りがないかを部会において確認することにより、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていると考えている。

根拠資料

シラバス、試験成績分布

⑩学修目標に従って、適切な学修成果が得られているか

主担当教員による自己点検・評価報告書に基づく学習目標の達成度は概ね良好であり、適切な学修成果は十分に上がっていると考えている。

根拠資料

自己点検・評価シート、授業振り返りアンケート結果